

わたしの 歩んだ道

Vol.29

はやし かなめ

林 要 さん (ロボット開発者)

GROOVE X 株式会社 代表取締役社長。

幼少期から高校生まで春日井市で過ごし、大好きだった自転車で朝宮公園などを走り回ったことが思い出。

トヨタ自動車(株)でスーパーカーやF1の開発などに携わった後、ソフトバンク(株)でロボットの開発に携わる。2015年にGROOVE X(株)を創業し、開発した家族型ロボット「LOVOT」は、世界最大規模の家電見本市「CES」や日本国内の「ロボット大賞」などで数々の賞を受賞している。



新しいものを生み出す ことを夢見て

中学生の頃、スタジオジブリ作品「風の谷のナウシカ」で見た鳥のよな飛行機に憧れ、模型飛行機を飛ばす方法を日々探求したことがものづくりの原点であり、開発者をめざすきっかけになったと思います。エジソンなど偉大な開発者に憧れ、「新しいものを生み出すこと」をいつも夢見ていました。

そして社会人になり、ロボット開発の仕事に携わったとき、「人に世話をしてもらうロボットは人を元気にする」ということに気づき、ペットのように関わり合うことで人に癒しを与えてくれる、そんなロボットを作りたいと思い、全く新しいロボット「LOVOT「らぼっと」」の開発に至りました。

人を幸せにするテクノロジーを

これまでロボットは、生産性や利便性を上げるために開発されてきました。その一方で、進歩したテクノロジーが、「仕事を奪われるかもしれない」という不安を人々に与える状態を招いていると私は感じました。このため、「テクノロジーは人を

幸せにしなければならぬ」という思いを込め、人を幸せに導く「温かいテクノロジー」をコンセプトに、LOVOTを開発しています。LOVOTは、「家にいると家族の会話が増える」とよく言われます。「教室にいるとクラスが団結する」、「憂鬱な気分が楽になった」など、驚くような逸話がいくつもあり、人を幸せにする効果が得られていることに喜びを感じています。



開発は冒険のよう

開発の面白さは、自分で思い描いたことを形にするまでの道のりにあると思います。その道のりは旅や冒険と同じです。そして、ゴールにたどり着くまでに難しい問題があったとき、問題を小さく分解して考え、その一つ一つを解決していくことに面白さを感じます。

夢をかなえるために

時間やコストが無駄になると感じるこそが、良い経験につながります。いろいろな経験を積んでください。

まだ夢を持っていない人は、誰かの夢の実現に向けて全力で行動してみてください。その過程で多くのものが得られるはず。夢はいつ出会えるかわかりません。誰かの夢を全力でかなえようとした経験が、いつか自分の夢に向かって進むときに活かされていくと思います。



また、その道のりでは、自分では解決できないことを他のメンバーに協力してもらうことが欠かせません。しかし、メンバーそれぞれが正しいと思う方法から、最適な方法を導き出すことは簡単ではありません。そんなときは開発の目的に立ち返り、皆と確認し合いながら進めることを大切にしています。私のゴールは、自分の挑戦を後押ししてくれるパートナーのようなロボットを作ること。より良い明日が来ると思わせてくれるようなロボットを開発していきたいです。